

組合員の作品



いまでも現役の井戸
寝屋川市岡井町A氏宅
成田支部 南 貢



ちぎり絵
さつき支部 橋本みどり



生駒山系を臨む
理事 樋ノ上 博敏



パッチワーク
みい支部 吉田 恵子

短歌

故郷ふるさとの満天星座見上げつつ兄と競いて穴子釣りたり

門真中央支部 兵頭 克己

梅雨冷えの半日をかけ煮詰めたるマーマレードの琥珀のさまよ

みい支部 團 満里子

夫逝きて六年となるこの夏も迎え火を焚くひとり夕べに

みい支部 稻原 一枝

箱館山濃緑こみどりの谷見下ろせばひとときわ白きほお朴の花咲く

あいあい支部 長野 晃

生きたる楽しみに、あなたも短歌を作ってみませんか。歌会の見学歓迎します
京阪短歌会 連絡先 堀正子 電話・ファックス072-821-6502

まちがいさがし

2つの絵でちがう所は
7カ所。どこでしよつ？



「答え」は今月号のどこかにあります

萱島流作新田

さつき支部 酒井 則行

徳川幕府は、年貢を増やそうと新田開発を奨励していました。旧大和川の川跡や深野池・新開池が開発されました。池だけでなく川の堤と堤の間の増水すると水に浸かるような所も、堤を造らない流作新田として年貢の割合を減らすという条件で奨励もしていました。そこで、1722年寝屋川の現在の萱島あたりを開発しようとして、守口南寺方の庄右衛門が開発願いをだしました。この萱島は、栗本・上馬伏・上下島頭や堀溝・部屋しむいなどの村人の屋根を葺く萱かやや簾すだれの材料を取る萱取り場でした。しかし庄右衛門、川に翻弄され開発を諦めました。その後、大坂の兵庫屋が願いを出し許可がおりりましたが、間もなく権利を他に譲ります。そして1738年、大坂の長島七郎兵衛兄弟がようやく検地を受ける所まで開発しましたが、数年で砂原と化しました。

その後も幾人もの人が開発に挑戦しますが、失敗に終わりました。お上から萱取りをしている村々に希望者を募りますが、名乗り出る者がおりません。天明年間中ごろ(1781~83)、神田家善右衛門は、周辺村落の有力農民を募り(17軒が参加)、開発地は通常より低い小作料で貸すという条件で流作新田が完成しました。

最初の挑戦から60年ほど後のことでした。その地は、地図にある四町通りです。ここでの年貢は現在の萱島駅の楠木辺りにあった会所に納められたということです。その後、田畑は宅地に変わり現在の萱島付近となっているのです。

